



# 県庁のしごと改革 ニュース

第36号



スローガン:「速く」「ムダなく」「いい仕事」

令和6年度の

## 「ひとり1改革運動」の取組成果

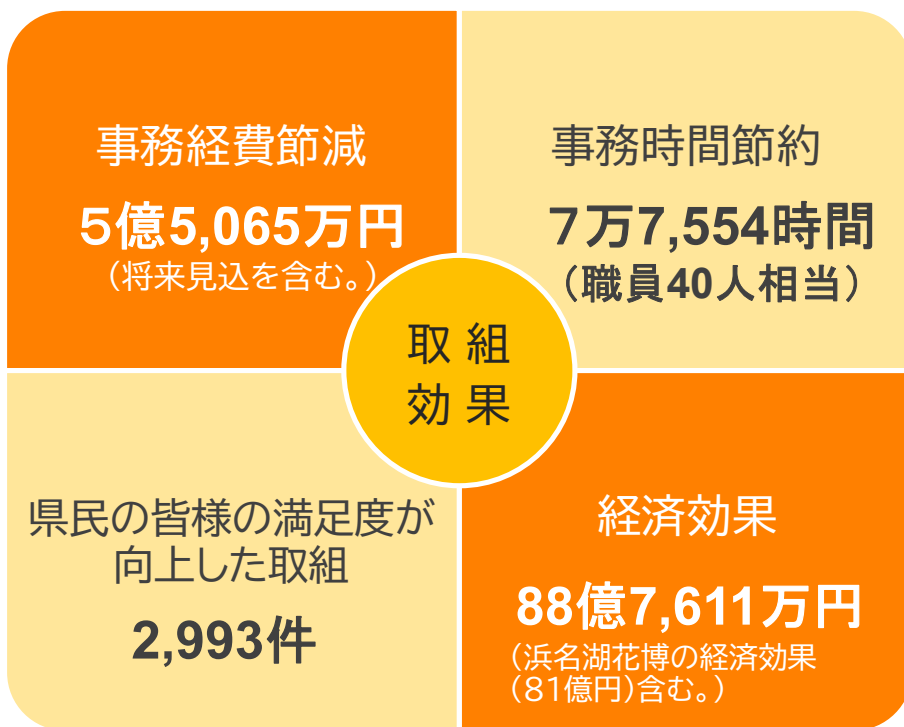
を御紹介します！

静岡県では、職員一人ひとりが自ら考え、身近なところから改革・改善を実践する「ひとり1改革運動」に取り組んでいます。

「ひとり1改革運動」は、平成10年度から始まり、令和6年度で27年目となりました。

27年間の取組件数は約34万5千件となり、経費の節減や時間の節約、県民サービスの向上に大きな成果を上げています。

令和6年度の取組件数 **11,429件**



※ 取組効果として掲載した数値は、取組成果の目安として、見込みも含めた各所属の自己申告値を集計したものです。

バックナンバーはこちら

静岡県 財務部 行政経営課



静岡県 行政経営課



〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 電話:054-221-2911 FAX:054-221-2854

E-mail [gyoukei@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:gyoukei@pref.shizuoka.lg.jp)

<https://www.pref.shizuoka.jp/kensei/gyoseikaikaku/gyoseikaikaku/1011717.html>

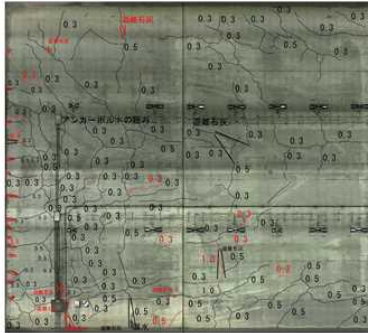
令和7年4月発行



### トンネル施設点検の効率化・高度化

(道路保全課 防災安全班)

課題	解決策	効果
トンネル施設点検に際し、交通規制のうえ点検者が目視かつ手書きによるスケッチでひび割れ等の記録を行っており、一般車両の通行の妨げになるとともに点検作業が非効率であった。	走行型画像計測技術を導入(専用車両が走行しながらトンネル内の画像データを取得し、AIがひび割れを自動検出)	● 交通規制期間の短縮による県民サービス向上 ● 交通誘導員の人件費や点検に要する経費削減 (約 30 百万円/年)



大阪経済大学 准教授 酒井 大策 様

インフラの老朽化が社会問題なる中、いかに効率的かつ正確に現状を把握するか、いかにコストを抑えるかが、行政の大きな課題となっています。新技術を適切に利用することにより、この大きな課題に効果的に対処することができており、本当に素晴らしい取り組みであると思います。

## 令和6年度「ひとり1改革運動」年間優秀事例紹介

### 業務効率化部門大賞



### 生成AIツールの導入による業務効率化に向けた取組

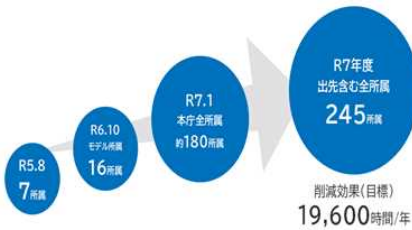
(デジタル戦略課 デジタル戦略班)

課題	解決策	効果
職員が生成 AI ツールを利用できる環境を整えたが、利用制限や行政に特化した回答ができないこと、業務への活用方法がわからない等の理由から、利用が広まらなかった。	● LGWAN 上での利用可能かつ県独自のデータを登録できる「RAG 機能」を持った生成 AI ツールを導入 ● プロンプトレシビ集の作成や会議での実演を通じて利用を促進。	● 審査業務や問合せ対応業務への応用など、複数の優良事例が創出 ● 平均して 1 人あたり 5 分/日の削減効果

・ 生成AIからより良い回答を得るためにはプロンプト(生成AIへの指示文)が重要  
⇒「生成AIプロンプトレシビ集」を作成

約50個の生成AI利用アイデアを掲載

<b>01. アイデア出し</b> <ul style="list-style-type: none"><li>アンケート調査の設計</li><li>SNSのリスクアセスメント</li><li>クレーム電話に対するロールプレイ</li></ul> ほか	<b>02. 文章作成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>セミナーの紹介文の作成</li><li>県庁ウェブサイトチェック</li><li>SNS投稿案の作成</li></ul> ほか
<b>03. コード作成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Excel関数の作成</li><li>Excel計算式の解説</li><li>コーディング</li></ul> ほか	<b>04. 検索</b> <ul style="list-style-type: none"><li>用語の説明</li><li>難しい用語の言い換え説明</li><li>Excelの機能検索</li></ul> ほか



削減効果(目標)  
19,600時間/年

静岡産業大学 教授 小泉 祐一郎 様

本事例は、生成AIの活用を図るために課題の抽出と対策の検討を経て具体的な解決策が講じられており、業務用の新たなツールを組織的に導入する際の官民に共通したモデルとなる優れた成果です。効果の可視化の工夫がされており、県の組織だけでなく県内の自治体、企業、学校等への啓発効果も期待できます。

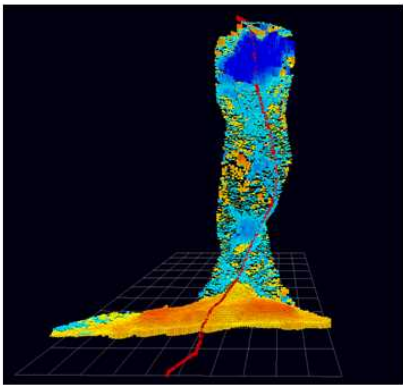




DXを駆使した災害査定

(下田土木事務所 工事第2課 工事班)

課題	解決策	効果
崩壊した斜面について、被害状況を確認するための測量や災害査定を現地で行っていた。安全を確保しながら測量や災害査定を行うことは、大きな負担であった。	ドローンを活用した航空測量から3次元点群データを取得する。	<ul style="list-style-type: none"><li>安全かつデータに基づく測量・解析により災害の状況を把握することが可能</li><li>経費約10百万円削減・調査期間約1ヶ月短縮</li></ul>



静岡県立大学 准教授 木村 綾 様

本取組は、様々なデジタル技術を駆使し、安全確保、業務効率化、時間・コストの削減に大きく寄与しただけでなく、災害査定のプロセスに『変革』をもたらした好事例です。映像やデータの解析から、従来の価値軸とは異なる新たな価値軸が生み出されたことも非常に高く評価されます。

令和6年度「ひとり1改革運動」年間優秀事例紹介



「ふじのくにグローバル人材育成事業」における広報活動

(教育委員会 教育政策課 政策推進班)

課題	解決策	効果
高校生等の留学を支援する「ふじのくにグローバル人材育成事業」は県民の認知度が低く、留学生の募集にあたり課題があった。	認知度向上のため、特設 HP の開設やポスター・SNS 等を活用した広報の他、学生自らが海外の魅力や留学で得た体験を周囲に伝えるなど、周知及び留学機運を醸成。	<ul style="list-style-type: none"><li>定員を上回る応募があった</li><li>高校生等の留学機運の醸成</li></ul>



R6年度(第1期)応募実績			
採用予定人数を大きく上回る応募 普通高校、専門高校、総合高校、通信制高校など多様な学校生徒が合格			
区分	応募者数	採用者数	倍率
高2、3(含チーム応募)	63人	44人	1.43倍
高1	22人	7人	3.14倍
合計	85人	51人	1.66倍
令和5年度採用者数(採用予定人数は各県とも50人)			
県名	応募者数	採用者数	
石川県	41人	41人	
滋賀県	39人	38人	
静岡県	85人	51人	
採用校数			
区分	校数		
R5国事業採用校	16校		
R6 (国事業+県事業)	31校		
31校中16校が新規採用校			

静岡大学 教授 牛場 智 様

近年、注目されている広報戦略の1つに、口コミを利用するバイラルマーケティングがあり、視聴者の共感を促すSNSの運用が重視されている。本事例でも実際の派遣留学経験者が出演することで希望者への訴求力を高め、結果として多くの応募者数を達成している。今後は他部門への横展開も期待したい。